

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294202052		
法人名	株式会社 スマイル		
事業所名	スマイル住まいの鞆子		
所在地	静岡県静岡市駿河区丸子2-16-11		
自己評価作成日	平成31年2月22日	評価結果市町村受理日	令和元年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2294202052-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成31年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様に対して、敬う姿勢をもってサービスを提供させていただくことを誇りとしています。”こころ”を育て”かたち”に示すことが重要であると考え、職員全員が「スマイルの誓い」を徹底して、お客様に接するよう心がけています。
さらにお客様の意思を尊重して、その人らしい生活をおくっていただけるよう支援しています。お客様の行動を制限することなく、希望に添えるよう対応させていただいています。
また、過剰な介護はせず、お客様個人個人の強みを活かせる介護を目指しております。建物は平屋造りですので、緊急の場合でも安心して行動ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年3月に開設し満1年を迎えた事業所である。旧東海道丸子宿入口の交通至便な場所で交番やコンビニエンスストア、地域包括支援センター等が所在し、地域に根ざした介護事業所として、今後も最適な環境でのサービスが期待できる。法人理念を念頭に、地域や関わる全ての人の「繋がり」や職員が笑顔で接し利用者も笑顔になる「笑顔」、また、利用者や家族の「安心」を願っている。利用者を敬う心を『スマイルの誓い』として具体的に心得を掲げ、毎朝唱和して礼儀や言葉遣いにも配慮している。法人内で実績がある管理者を中心に、職員全員が一人ひとりに寄り添い支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「繋がり」「笑顔」「安心」が連想される事業所を目指しています。”こころ”を育て”かたち”に示すことが最も重要であると考え、常に「スマイルの誓い」を心がけています。	法人理念を念頭に、地域や関わる全ての人との「繋がり」や笑顔で支え笑顔が返る「笑顔」、また、利用者や家族の「安心」を願っている。利用者を敬う心を『スマイルの誓い』として掲げて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の催物にはできるだけ参加させていただいています。地域の交流会、連絡会にも参加するように意識しています。	自治会や商店会との連携で宿場祭りなどの季節の行事が多い地域である。事業所としても可能な範囲で参加し、地域住民としての交流に努めている。事業所への地域ボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行う以外には、外の掲示板にお知らせをして、事業所に来ていただける機会を設けています。地域のボランティアの方々を招き、事業所の様子を知っていただくようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際には、意見を伺う機会を随所に設けています。その意見に対しては、速やかに検討して、対処させていただいています。	会議は奇数月に開催し、定期的を実施している。家族代表や自治会長、民生委員や地域包括支援センター等の出席がある。事業所の状況報告をして意見を求めるなど、活発に議論している事が議事録より確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内をし、会議後には議事録を送付しています。他相談や報告などは随時行っています。	市介護保険課や生活支援課との連絡や報告事項などは円滑に推移している。地域包括支援センターとの関連で地域のグループホーム連絡会が機能しており、懇談会や研修など事業所の運営に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」宣言をしており、全社で拘束のないケアを行っています。身体拘束廃止委員会を作り、3か月毎に会議を開催しています。	18年度法改正に伴う適正な運営を理解し、研修や委員会設置による評価等を定期的に行っている。家族から車椅子での転倒防止を防ぐためにベルト着用を要請されたが、着用せずに安全確保する方法を検討した記録がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は個々に外部の研修会に毎年参加しています。高齢者虐待や身体拘束についての自己点検のアンケートを行い、他にも社内の研修会を開催しています。		

静岡県 スマイル住まいる鞠子

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の権利擁護を受けているお客様がいらっしゃるのので、訪問などの対応はしているものの、職員全員が成年後見制度も理解をして、活用できるまでには至っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定等の際には、わかりやすく説明することを心がけ、不安や疑問点については、その場で理解し、納得していただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等でも随時伺っているが、定期的にアンケートを実施しています。意見や要望等については、全社で集約して回答、改善に取り組んでいます。	家族には、毎月写真付きで利用者の様子や支援の内容を記した便りを送付しており、関係は良好である。家族の来訪や電話の際に意見や要望は出るが全体的な問題ではない。法人としても、アンケート等で意見の収集に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見や提案を聞く機会を設けて、反映させています。スタッフボイスの設置等。	管理者や職員間の意思疎通は円滑である。仕事中やユニット会議でも意見は出し易く、職員全員で話し合う環境ができています。事業所のパソコンシステムに職員から社長への直通ラインがあり、直接意見や提案をすることが可能である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期の人事考課や正社員登用制度を設け、キャリアアップの推進を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護に限らず、個人情報の取り扱いや接遇の基礎等についても研修を行っています。資格取得の為の対策講座等も開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会や交流会に参加して、勉強会や情報の共有を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前のアセスメントをしっかりと行うことで、ご本人の意向を確認します。サービス開始後は、積極的に思いを受止めながら、必要な対応をミーティング時に職員間で共有し、サービスに活かしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様にご家族の意向を事前に確認を行います。サービス開始後も来所時や運営推進会議、アンケート等で確認できる機会を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向を踏まえて、必要とされている支援を判断する時に、他のサービス利用が必要な場合には、慎重に提案を行い、同意のもとに支援する様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、自立支援を念頭において、時には個々にお話を伺う等、ご本人との信頼関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊や外出の希望には、必ず対応させていただきます。全社でご家族同伴の旅行の提案等も行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族、ご友人等、何時でも来所していただけるようにしています。	家族や古くからの知人や友人との関係が長く継続されるように、職員全員が来訪者に気を配り注意し合っている。来訪者が訪ねた本人以外の利用者とも馴染みの関係が生まれ、利用者の安心感が増している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の意思を尊重し、他者との交流ができるように支援しています。例えば、車椅子の方でも積極的に他者との交流の場へ参加できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	それまでに築いた信頼関係を大切に、相互に相談し合えるよう心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から傾聴する姿勢を大切に、思いや希望の把握に努めています。困難な場合は、行動や発言を考慮しながら、常に本人本位に検討する事を心がけています。	生活歴を把握し、普段の生活に繋げている。パズル好きな男性が好きなパズルを自分で選んで居間で楽しんでいたり、裁縫の好きな女性は簡単な縫物に変えて達成感を味わったりしている。利用者が不穏な時は居室に戻り、個人的に話を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前のアセスメントの重要性を認識し、十分な把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活歴等の経過を把握した上で、現在の状況を理解し、強みを活かした支援ができる様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の言葉、思いを日々接する職員が理解し、意見を出し合い、医療の連携を受けつつ、ご家族の思いを伺いながら、介護計画に反映しています。	3か月と6か月で見直すが、入退院時等で変化があった場合にも見直している。カンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。家族には介護計画を郵送して意見を記入してもらい、次回の介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りファイル、訪看、往診ファイルを活用し、情報の共有に努めています。日々の情報を共有した上で、ケアカンファレンスを行い、介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	神奈川及び静岡に展開する強みを活かし、情報の収集、改善を行い、既存のサービス以外の活用も考慮して支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等の受入、自治会の行事の参加、外出等により地域との関わりが持てるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人、ご家族の希望を伺ってかかりつけ医を決めています。受診についてもその都度、ご本人、ご家族、医師に相談・連絡・報告をしながら、必要な時は指示を受けています。	本人や家族の希望により、全員が事業所の協力医である往診医をかかりつけ医としている。月2回の往診と、週1回の訪問看護師による健康チェックがあり、24時間対応である。また歯科医による訪問診療もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護以外にも、常に連携をとっており、お客様の状態については細かく相談・報告し、指示を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院関係者、ご家族と相談し、より良い治療が受けられる様、また早期退院ができる様に情報の共有をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用開始時に、重度化対応・終末期ケア対応指針・看取りケアに関する確認事項等については、ご本人とご家族に説明を行い、同意を得ています。必要となった時には、再度確認を行い、医療連携を密にしてご家族との連絡・相談を随時行う様に努めています。	入居時はもとより変化があった場合に説明を行い、確認を取っている。看取りとなった際には、医師の意見や家族の希望を含めて相談し、援助計画を作成している。看取り経験はあり、法人の看取り研修にも全員が参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日の朝礼でCPRの復唱をし、練習を行うと共に、AEDを設置し、職員には使用方法を周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回自衛消防訓練を実施しています。内1回は消防署にも協力して頂きながら、行動の確認と意識の向上に努めています。	年2回の消防訓練のうち1回は消防署が立ち合っている。運営推進会議後に行った消防訓練を家族に見学してもらった。玄関にAEDが設置されていた。地域の人には声掛けをしているが、防災の協力体制を築くまでには至っていない。	開設して日も浅く、まだ地域との協力体制は不十分である。地域との連携を深め、自治会との関係を明確にすることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「スマイルの誓い」を毎朝斉読して、常に敬う気持ちを持って対応する事を心がけています。プライバシーについては研修も行っています。	事業所の方針「スマイルの誓い」を職員全員が毎朝唱和し、礼儀や言葉遣いに気をつけている。ドアを閉め切らず少しだけ開けて、利用者の変化を見逃さないようにしている。事業所内でプライバシーの研修を行い、日常の支援に反映させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を知る為に、できる限り傾聴し、自己決定ができるよう努めています。ご本人が自己決定できない場合でも思いに沿った決定ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、施設内はお客様の空間であると意識し、何事にもお客様優先を心がけています。体操やレクリエーションについてもご本人の意思で参加されています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方は、ご本人が選択されています。介助等必要な方でも声かけを行いながら、選択させていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食べ物があるお客様は、好みの物に変更しています。職員と一緒に食事をして、準備や片付けなども出来る時にはお手伝いしていただいています。	毎日の食事は宅配や冷凍の食材を利用しているが、おせちなど行事食は職員の手作りと一緒に食べている。ホットケーキやお好み焼きなどのおやつを利用者も一緒に作り、片付けも手伝っている。外出先のフードコートで好きな物を自分で選んで食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は、日毎に確認出来るようにしています。十分な摂取量を摂ることが難しい方には、種類や形態を変えることで対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方は、声かけ等で口腔ケアをしていただいています。ご自身では困難な場合は、介助にて行っています。		

静岡県 スマイル住まいる鞠子

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを使用し、個々の排泄パターンに基づいた介助を行っています。できる限りトイレで排泄ができるように支援しています。	自ら席を立つ利用者のトイレに同行するが、職員は付き添い見守っている。排泄チェックシートからパターンを把握し、それぞれのタイミングでさりげなく声掛けをしている。他人に気づかれない様に配慮し、できる限りトイレで排泄するように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認が取れない場合は、ご本人に体調を伺い、飲食物にも工夫をしながら便秘にならないように努めています。毎日決まった時間に体操を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際は、ご本人に入浴されるかどうかの希望を伺っています。その方に合わせた入浴方法で、体調をみながら個々に支援しています。	入浴は2日おきで、時間は午後を基本としている。入浴を拒む利用者には、時間を空けて声掛けをしたり翌日に変更したりしている。理由を説明し、利用者も納得してから入浴している。好みで入浴剤やゆず湯等の季節のお風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おひとりおひとりの体調をみながら、必要と判断した場合は、昼間であっても休息していただいています。夜間は、個々に室内灯や室温を調整して、安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療と連携して、薬の作用や目的を理解し、薬については、いつでも確認が出来るようにしています。新しい薬を服薬後、症状の変化がみられた場合は、速やかに主治医に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴だけでなく、ご本人の希望を伺い、無理のない範囲での役割をお願いしています。身体を動かしたり、外気に触れたり気分転換等は、日々行うよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、車での外出企画を立てて実行しています。日毎に外に出たいと希望された場合については、散歩や買い物同行等をお願いしています。歩行が困難な場合でも、玄関前にて外気を感じる等の支援をしています。	毎月職員が外出計画を立て、全員で近隣公園や商業施設に車で行ったり、年始に初詣に出かけたりしている。希望者のみでケア付きの日帰り温泉に出かけることもある。普段散歩に行く人もいるが、外気浴を兼ねて洗濯物の取り込みなどをする利用者もいる。	

静岡県 スマイル住まいる鞠子

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物品の購入を希望される場合には、事業所で立替えることになっているので、基本的に現金はお持ちになっていませんが、ご本人・ご家族からの要望で、ある程度の金額をご本人がお持ちになり、買い物をされる方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には、直接電話をしていただいたり、手紙が届けば、お渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、清潔を保持するように注意し、季節を感じられる装飾や植物などで、心地よく過ごしていただけるように心がけています。	居間の天井は吹き抜けで、明るく開放感がある。玄関や廊下に花の水彩画が飾られ、居間のテーブルには折り紙で職員手作りの花が置かれていた。居間の壁の飾りは季節ごとに変更しているが、ちぎり絵など利用者の共同作品のみに留め、個人の作品は各居室に飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間には、テレビやソファ、テーブルとイスが配置され、思い思いに過ごしていただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際には、ご家族とご本人で相談しながら、馴染のものや使い慣れたものをお持ちいただいています。ご本人の好みに合わせた配置をして、心地よく過ごしていただけるように支援しています。	クローゼットやエアコンは備え付けで、寝具のベットの各自で持ち込んでいる。家具の配置を家族や職員と相談しながら、居心地の良い居室となるように支援している。中には、カーペットの上に鏡台や整理ダンスを置き、今までの習慣から入室時に履物を脱いで過ごす利用者がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人ができることを安全に行っていただく為、共有の空間には全て手すりを設置しています。廊下等は、車椅子や押し車も使用できる広さを確保しています。		